



速 報 版

千代田区丸の内1/8ノ1
国労東日本鉄道本部
発行責任 金井 末吉
編集者 榎村 潔

No. 1

1987年

3月6日

闘う国労の旗のもとに
「統一と団結」を固め
組織と雇用を守り抜こう

闘いはいまから

国労東日本鉄道本部を結成

二月二十七日、東京・一ツ橋の日本教育会館で、国労東日本鉄道本部結成総決起集会が開かれ、東日本鉄道会社に採用された国労組合員三一、〇〇〇人を代表し、九地本（盛岡、秋田、仙台、水戸、千葉、高崎、東京、長野、新潟）から約一、〇〇〇人が参加した。

集会では、東日本鉄道本部を結成するまでの経過（内容は次号）を満場の拍手で承認し、以下の役員を選出した。

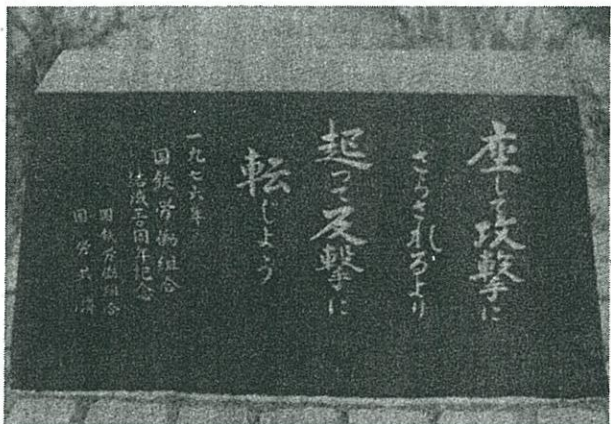
これで、東日本鉄道会社に対する闘う砦ができた。交渉体制もできた。この力で、組織拡大に全力を上げよう。国労の輝ける四〇年の歴史と伝統を守り、われわれの雇用と生活、日本の平和と民主主義を守るために、さらなる統一と団結を固めよう。

国労東日本鉄道本部役員体制

執行委員長	金井末吉	東京地本委員長	書記次長	鈴木	東京地本書記長	
執行副委員長	有谷清美	盛岡地本委員長	執行委員	飯田真司	関東本部書記長	
三浦	敬秋田	地本委員長		今井	仲秋田	地本書記長
千葉五郎	仙台地本委員長			吉田春美	仙台地本書記長	
牛木利雄	新潟地本委員長			古塩正一	新潟地本書記長	
田中昭良	高崎地本委員長			木暮悦郎	高崎地本書記長	
鈴木康雄	水戸地本委員長			中根功治	水戸地本書記長	
沢田一夫	千葉地本委員長			平山茂男	千葉地本書記長	
田本	広長野地本委員長			吉田	進長野地本書記長	
榎村	盛岡地本書記長			宮坂	要東京地本企画部長	
				土屋	貢東京地本調査部長	
				伊藤俊豪	盛岡地本	
				佐藤将文	水戸地本	

国労脱退の誘惑に 負けない日条

1. 「国労では何もできない」という人には、「国労こそ団結し要求し闘う権利を持つている」「権利を放棄したのが改革労協」と教えてやりましょう。
2. 「労使共同宣言で安心だ」という人には、「出ていきます」「辞めます」「従います」のどこが安心なのか聞いてみましょう。
3. 「早くやめなきゃ損」という人には、「それならあなたからどうぞ、私は職場に残ります」とキッパリ答えましょう。
4. 「出ていかない」「辞めない」といっている人を守るのが国労、動揺している人には、「国労に入って一緒に新会社へ」とはげまそう。
5. 受け身になったらつけこまれます。国鉄マンの誇りを傷つけ、やりがい奪い心までゆさぶるやり方に怒りを示そう。
6. 「新会社の過員」「清算事業団」という人に「皆と一緒に闘って雇用を守る」と答えましょう。国労でがんばれば、必ず活路が開けます。
7. 「短期は損気」頭に血がのぼってカーッと怒ったらおしまいです。家族や友の顔を思い浮かべておおらかに。みんな、友を売るまい。心を売るまい」とがんばろう。
8. 一人だけで思いつめず仲間を信頼し、相談し、励まし合い、団結して脱退工作や退職の勧めに応じず、はね返ししましょう。



ア ピ ー ル

私たちは、多くの皆さんの支援を受け、歴史的な国鉄「分割・民営化」に反対する闘いを国民的大衆闘争として闘いぬいてきました。

昨年10月、修善寺町で開催された第50回臨時全国大会は、この歴史的闘いの節を成し、国鉄労働組合の民主的階級的な闘いの歴史と伝統を守り、全民労協路線の国鉄版といわれる労資共同宣言路線を拒否、国鉄輸送の安全と正確・利便を追求して国民の足＝国鉄の再生をめざし、人間として生き、人間として働き続けるために闘いぬくことを民主的に決定しました。

しかし、この闘いは苦しく長く、すでにこの2年間に、エリア内で44名もの仲間がファッショ的な労務攻撃によって自らの生命を断つという犠牲さえ生じさせてきました。それは私たちの弱さとして反省もしてきましたが、闘いの成果として、107国会参議院での各党合意の「附帯決議」として結実し、「次の闘い」への足がかりを残し、展望を示してきたとおりです。

私たち国鉄労働組合関東本部及び東北本部に結集する各地方本部と長野地方本部は各々の困難をのりこえ、10月30日の会議をかわきりに、本部指導も受けつつ自主的に国労東日本ブロック協議会を結成し、『列車が止る？ 当局の要員計画』『雇用は国労の強い団結が守る』等のチラシや壁新聞を作成し、組合員と家族の皆さんの団結を訴え、このファッショ的な労務攻撃を告発しつづけてきました。

1951年の国労新潟大会が、『平和4原則』で闘う方針を民主的に決定してきた闘う歴史と伝統を無に帰すことなく、誇りたかく、今日ある不幸な事態を克服し、一日も早い全国の再統一にむけて、全力で取り組む決意を固める意志統一をしました。

私たち東日本鉄道本部に結集する全組合員と家族は、民主的階級的国鉄労働運動における牽引車としての任務を自らに課し、自覚し、すべての民主的国鉄労働者とすべての国鉄人を結集し、全力をあげて新生国鉄の真の再生を期して闘いぬくことを確認しあいました。

しかし、今日、私たちを取りまく情勢は極めて厳しいものがあります。それは、地方の切り捨てを断行する「四全総」に集大成された、儲からない産業は地域ぐるみで切り捨てる産業構造の転換を図る行革であり、一部指導部の裏切りです。失業者はどんどんつくり出されているのです。

又、私たちが数年に亘って仕掛けられてきたファッショ的な労務攻撃は、今、全ての労働者・勤労者を襲いだしています。嘘やデマゴギー、そして強権政治はファシズムの温床です。政治も職場も、そんな空気が充ちだし、大変危険です。

営利を目標にした鉄冷え、炭鉱つぶし、造船廃業などなどのやり方がそうですし、マル優制度の廃止や、売上税の新設がそれです。

私たちの闘いを支援し、声援下さった共闘の仲間や、3,500万人もの国民の皆さんの期待に応えるためにも、当面する87春闘を私たち自身が全力で闘い、すべての労働者・勤労国民の生活と権利を守るこれらの課題とともに、国家秘密法再上提反対や防衛予算1%枠突破反対などの政治闘争をも固く結合させて闘いぬく決意を固めあいました。

中曽根政治の行く途には、平和と民主主義、福祉向上を目標とする日本国憲法を改悪し、軍事大国をめざす国家への変質が待ち構えています。

私たちは、これらの情勢を見極めつつも、国鉄が民営企業として再出発させられる現実を正しくふまえ、闘いには進むことも、後退することも、時には留らねばならないこともあることを理解し、常に組合員とともに歩むことを忘れることなく、組合員と家族の生活と権利を守る労働組合の第一義的任務の遂行に全力を傾注し、新しい会社の新しい経営陣との新しい労資交渉での「問題解決」と真の国鉄再生を重視し、全力で諸活動を取り組むことを決意しました。

今回の新会社への振りわけでは、北海道・九州の仲間たちを典型的具体例として、差別が強行され、雇用不安が一挙に煽られました。

官僚や一部政界人の利権漁りとしての民営分割を一早く世論に訴え、民主的・階級的国鉄労働運動の組織と思想潰しの国鉄解体攻撃の本質を告発しつづけてきた私たちは、これらの差別・選別攻撃は、自らの傷みであり、断じて看過するわけにはいきません。

差別・選別を強行した彼らを告発しつづけると同時に、差別・選別をしたままでの「4月1日スタート」を許さず、同じ国鉄人としても、労働組合としても問題解決にむけて積極的に対応してゆくことを意志統一し、北海道・九州をはじめとする仲間たちに全力で連帯して闘うことを宣言するものです。

国会は、一部国鉄官僚の横暴を排除し、附帯決議を全力で守りぬく義務があります。極左暴力集団の巢食う鉄道労連一部幹部などの横やりで「定員割れ」発足などという事態は国民に対する冒瀆以外のなにものでもないし、法治国家＝日本の名を汚す事態といわざるをえません。緊急に政府に対して、直ちに正すことを求めるものです。

私たちは、今日、東日本エリア内に置かれるすべての新会社等に所属する組合員、31,000名を代表する者によって、対応する国鉄労働組合東日本鉄道本部を結成しました。

さまざまな理由で、不幸にして国労を離れた仲間たちにも、誇りある国鉄人として心をついにし、社会をつくり文化を運び続けた安全・正確・便利な国鉄の真の再生のために、共に歩みつづけることを訴えます。

私たちの誇りは、国鉄の業務に精通し、社会を土台で支えてきた労働に対する自負にあったと確信します。その誇りをいつまでも胸にし、仲間とともに子供たちに、孫たちに、胸をはって生きることの尊さを引き継ぐことです。

平和と民主主義の誓たる日本国憲法が在り、私たち自身が無用な争いをさけて民主主義を守りぬくかぎり、もう恐れるものはありません。

もちろん新会社の機構と組織にあわせた機関整備と問題解決のための交渉体制の確立に全力をあげることは言うまでもありませんが、国鉄人として心をついに、力をあわせて働き、生きつづけることだと確信します。

東日本鉄道本部が結成された今日を出発点に、権力とデマゴギーによって破壊され、奪われた信頼を回復し、組織の強化・拡大に全組合員一丸となって取り組むことを宣言しアピールとします。

1987年2月27日

国 鉄 労 働 組 合

東日本鉄道本部 結成総決起集会